

市橋小だより

自分大好き 友達大好き 市橋大好き

令和6年9月13日

9月号

岐阜市立市橋小学校

校長 伊藤 泰介

学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果から～

4月に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果が届きました。市橋小学校は、国語、算数ともに全国・県の平均正答率を上回っています。

今回は、「質問紙調査と学力のクロス分析」の結果を紹介します。各家庭での取組の参考としてください。

①は、テレビゲームをする時間（1日当たり）と教科の平均正答率の関係を表したグラフです。このグラフからは「ゲームをする時間が短いほど教科の平均正答率が高い」傾向が見られます。

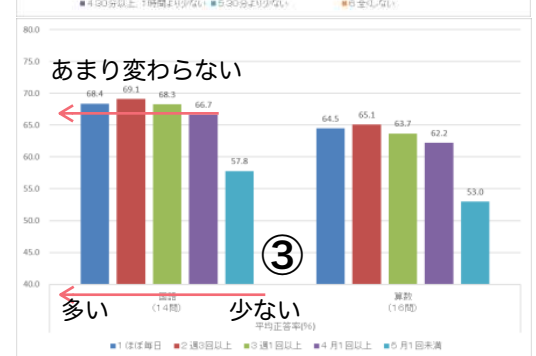
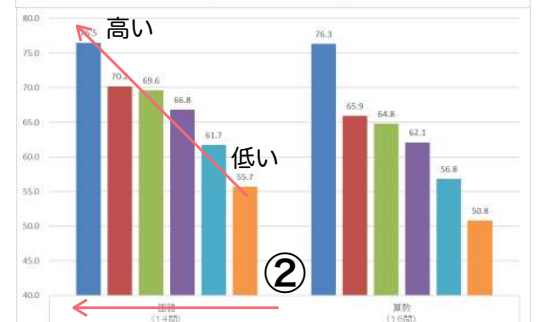
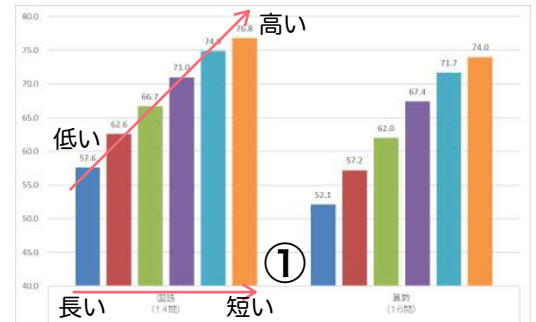
市橋小学校のお子さんは、6割程度が「2時間以内」と回答しています。

②は、勉強時間（塾等を含む）と平均正答率の関係を表しています。「勉強する時間が長いほど平均正答率が高い」傾向が見られます。

市橋小学校のお子さんは、「30分以上1時間より少ない」「1時間以上2時間より少ない」と回答する割合が多く、合わせて6割を超えています。

③は学校でのICT機器の使用頻度との関係です。市橋小のお子さんは9割超が「週3回以上使用している」と回答しており、全国や県を大きく上回っています。

しかし、使用頻度と平均正答率に関連は見られず、他の設問からは、「授業時間以外での勉強目的のICT機器の利用は、使う時間が短いほど平均正答率が高い」とも見られる結果がありました。ICT機器は頻度や時間よりも「何のために」使用するか、「どのように」使用するかを考えていく必要があるようです。



【注意】勉強時間を長くすれば、必ず正答率が上がるということを示しているわけではありません。ゲームをする時間が長くても正答率が高いお子さんもいます。大切なことは、こうした結果を自分の学習環境等の改善の“参考”にすることです。

※文部科学省・国立教育政策研究所の資料を参考にしていますが、誌面の関係で簡略化している部分があります。